

Cloudflare アプリイノベーションレポート

20
26

モダナイゼーションの利点

絶え間のない経済的混乱に翻弄される昨今、アプリケーションのモダナイゼーションは生き残るための必須条件です。

戦略について議論に明け暮れている企業が存在する一方、「リーダー」（先導的企業）は急速な革新を実現するだけでなく必然とするための基盤を構築しています。それらの企業にとって、アプリケーションインフラと社内ワークフローをモダナイズするプロセスは、企業の運営方法と価値提供の方法を再構築する体系的な変革を意味します。

この変革は、3つの強力な推進力によって、まさに転換期を迎えています。

1 まず、**エージェンティック人工知能 (AI) の台頭**は、モダナイゼーションイニシアチブの潜在的なROIを拡大させます。AI搭載システムには、アジャイルなインフラ、リアルタイムデータアクセス、およびその場で統合および適応できるアプリケーションが求められます。これらの目標をサポートするために、企業はモダナイゼーションイニシアチブを推進することで、AIのユースケースを拡大し、より大きな成果を上げることができます。

2 第二に、**高度なサイバー脅威には、高度な脅威対応が不可欠です**。アプリケーションのパフォーマンスやユーザーエクスペリエンスを損なうことなく、高度化、複雑化、進化を続ける脅威に先手を打つためには、企業はインフラ全体に設計段階からセキュリティを組み込む必要があります。これらの脅威を検出して対応するには、スタック全体にわたる深い可観測性が不可欠です。これは、企業がアプリケーションとインフラを、適切に統合された単一のプラットフォーム上で統合できる場合にのみ実現可能です。

3 そして第三に、**高まるユーザーの期待値**です。パーソナライズされ、即時性を備えたシームレスなデジタル体験が当たり前になり、例外とはみなされなくなりました。安全で高性能なアプリケーションの基準を満たせない場合、企業は関連性、収益、およびユーザーからの信頼を失う可能性があります。

記事の要点

- エージェンティック人工知能 (AI) の台頭は、モダナイゼーションイニシアチブの潜在的なROIを拡大させます。
- 高度なサイバー脅威には、高度な脅威対応が不可欠です。
- ユーザーは、デジタル体験により高い期待を持つようになっています。

会話をリードする側と取り残される側の間にある本当の格差は、技術的な問題であると同時に文化的な問題でもあります。「リーダー」は、規律、集中力、信頼、大胆さ、自信という文化に基づき戦略的な行動を起こします。彼らは社内プロセスを完成させるために時間をかけ、セキュリティを成長の増幅剤とみなし、AIのような革新的な技術を最大限に活用するために、計算されたリスクを取ります。

一方、対策が遅れた企業は、拡大し続ける技術的負債管理を強いられます。強固な中核、社内連携、リソース最適化がなければ、企業は主要な拡張機会を逃し、セキュリティギャップの修正にリソースを浪費し、同業他社と同等の効率とスピードでAIイニシアチブをサポートすることが困難になります。

エージェンティックAI、加速するサイバー脅威、ユーザーの期待の高まりが競争のルールを変えつつあり、緊急性は明らかです。効果的モダナイゼーションを把握している企業こそが、市場を形成し、エクスペリエンスを定義し、次世代の標準を確立するのです。

残りの部分については、行動喚起は簡単です。**スタック全体をモダナイズしましょう。アプリケーションとインフラが統合されたプラットフォーム上に構築しなければ、既存のプラットフォームに定義されてしまうリスクがあります。**

先進企業の構造

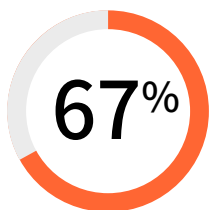
「リーダー」は、より懸命に働くことだけでなく、戦略的な基盤を構築することによって優位性を得ます。

新技術を活用する競争において、先進企業は強固な基盤を優先することの重要性を理解しています。アプリケーションインフラを最適化して、レジリエンスとセキュリティを最大限に高めるだけでなく、優れたアイデアが自然に加速する環境を構築することで、革新は偶然ではなく必然的に生まれるのです。

この強固な基盤こそが、先進企業がAI時代を牽引する理由です。すでにレジリエンスとアジリティを備えたインフラを導入しているため、驚くほどの速さと確信をもって新技術を組み込むことができるのです。競争優位性を拡大し、ビジネス機会を追求するためのソース割り当てに苦慮することはありません。

このレポートに掲載されている先進企業は、それぞれ構造と優先順位が異なりますが、以下の4つの明確な特徴を共有しています。それは、効率化された意思決定プロセス、積極的な「AIファースト」のアプローチ、設計段階からのセキュリティ対策、そして継続的な革新への注力です。

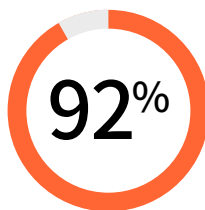
意思決定の効率化



の先進企業は、わずかな人数で意思決定を集中管理しています (対して「ラグード」は19%)

「リーダー」であるかどうかは、意思決定の方法によって決まります。命令システムを簡素化した企業は、より大胆な財務上の契約債務に裏打ちされた、迅速かつ果断な行動を可能にします。このアジャイルな構造が、障害を克服し、革新を必然的な成果に変えるための鍵となります。他の企業は、官僚主義によって足止めされています。

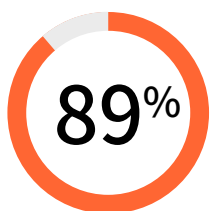
大胆な「AIファースト」アプローチ



の先進企業は、アプリケーションのモダナイゼーションへの取り組みが、AI活用に非常にプラスの影響を与えていると述べています (対して「ラグード」は59%)

明確な競争力の差が拡大しています。「AIファースト」戦略を採用する「リーダー」は、投資から明確な成果を得られる可能性が約3倍高くなります。他がAI導入のメリットについて議論している一方で、「リーダー」はすでにAIを活用するための戦略的なビジネスケースを策定し、それを有意義な方法で実装するために必要なインフラと社内のアジリティを備えています。

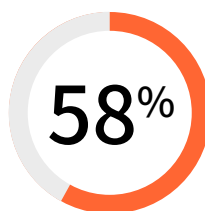
セキュリティバイデザイン



の組織は、高いレベルの連携*を報告しており、すでにAIを活用するように設計された新しいアプリケーションを構築しています

「リーダー」は、セキュリティは後付けではなく、設計段階でアプリケーションに組み込む必要があることを理解しています。これにより、企業の連携が強化されるだけでなく、セキュリティインシデントの修復に費やす社内リソースを削減し、拡張、革新、ユーザーエクスペリエンスの向上に、より多くの時間と労力を費やすことが可能になります。

開発者のイネーブルメント



の先進企業は、開発者が完全に新しいシステムを構築するよりも、既存の基盤のメンテナンスに多くの時間を費やしていると述べています (対して「ラグード」は17%)

「リーダー」は、開発者が壊れたシステムの修正やゼロからの再構築ではなく、戦略的なモダナイゼーションに注力できるよう権限を与えます。その結果、「リーダー」はアプリケーションをより迅速かつ効果的に拡張し、最新のAI技術を活用し、ビジネス上の必要不可欠な要件を満たすためにより多くのリソースを投入できるようになり、持続的な成功へとつながります。

*セキュリティとアプリケーションのモダナイゼーションのイニシアチブ間で高度な整合性があると報告した先進企業。